

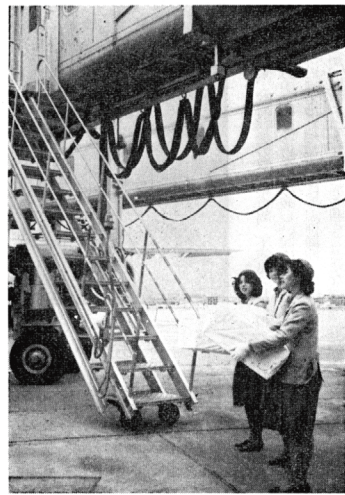
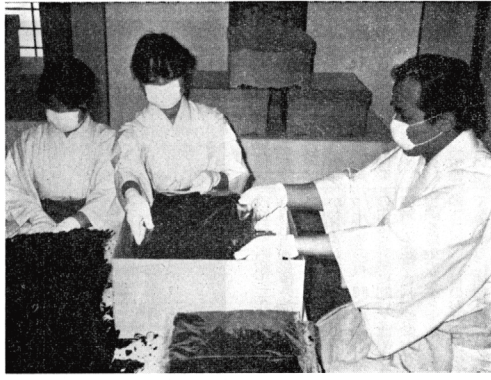


毎月十五日発行 社会 大像 宗像 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 結核式用品 本社 電話 京都 (075) 212-1111

春雪の中 玄界の新和布献上さる

神郡漁民の真心をこめて



写真説明 (上) 箱入れ作業 (下) 箱機入

本年度の「和布献上の儀」が、今年十九日、二十日、二十一日の三日にわたって行なわれてきた。...

「三月号」を見ても、この宗像大社、海洋神社奉賛会結成の趣旨が次の様に記されている。...

阿蒙少言 宗像大社歌会詠草 第三回 毎月一日ノ切 詠草到着順

洋識日本の神

漢才時代は過ぎて

古く昔々何十年か前の明治大正でも、和魂漢才なる言葉は使われて、昭和になってから同じことになった。...

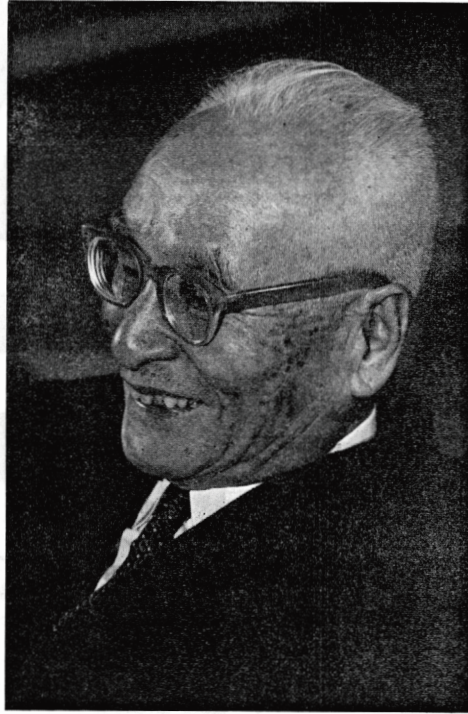
人なる神官、攝政関白等の宮廷公議士等者、に意見を陳する機会が与えられた。...

阿蒙少言 宗像大社歌会詠草 第三回 毎月一日ノ切 詠草到着順

阿蒙少言 宗像大社歌会詠草 第三回 毎月一日ノ切 詠草到着順

宗像大社復興期成会会長 出光佐三氏逝去さる

享年九十六才



ありし日の出光会長

宗像大社復興期成会会長出光三三氏が十七日午前十一時二十五分、急性心不全のため、東京都目黒区青葉台の自宅で逝去された。享年九十六才。わが国民族石油業最大手、出光興産株式会社の創業者として、その国家的事業手腕、また人間的徳義の下、和の経営を以て「定期船なし」労働組合なし、「出勤簿なし」といふユニークな経営は、これに有る。その死を報じ、新聞社もその一面、大々く取材してその報を伝えた。

出光はまた篤い敬神家として知られ、殊に宗像大社復興期成会として昭和五十二年の中心的存在であり、当大社復興に際しては御功績は著しく、神を哀悼の業を数々なされたが、その御遺徳を偲ぶべきこと。出光氏逝去十一年八月二十二日宗像大社復興期成会に生れた。神戸商業学校(現神戸大学)卒業後、実業家として大成された。昭和十二年三月四日、復興期成会発足の中心人物として、宗像大社復興期成会が発足した。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

就任された。爾來、戦前戦後の激動する社会状況の中で、宗像大社復興期成会がその中心人物として、宗像大社復興事業を進めてきた。昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

本殿の解体修理が昭和四十四年より四十一年までの七年に経てられ、復興事業は着実に進められた。昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

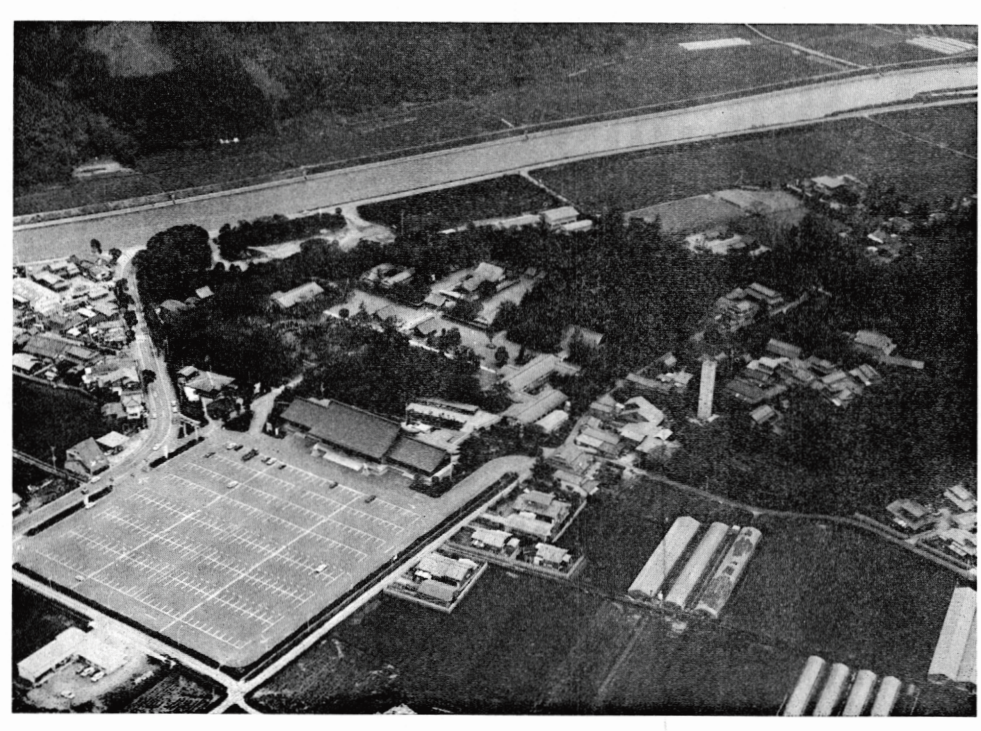
昭和十七年、復興期成会が完成された。出光氏は会長に就任された。その時、出光は会長に就任された。以来、その熱心な指導により、復興事業は着実に進められた。

計報に悲しむ宗像の人々 数え切れぬ郷土への貢献

宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。

宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。

宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。宗像復興期成会委員 伊豆善也氏談。



復興整備がなされた宗像大社辺津宮の御神域

出光佐三氏を偲んで

—— ありし日の会長の面影 —— (一)



奉幣祭をやり玉申奉奠をされる
復興期成会会長 46.11.12.

青年よ明治精神に帰れ

「日本精神を発揮したる明治時代」

—— 宗像高校での講演より抜萃 ——

私は岸に呼びかゝる。政治家 時代である。そしてあのゆるゆる面をあてするな、教に迷わされるな、そして祖先の血のささきを聞き、自らをたゞ言論界を引きよめ、この世帯を以て自分を鍛錬し、修養せよ。そしてその目標を明治時代の日本人たることに置け。

明治時代は日本に於て最偉大な力を發揮した時代である。建國以來の日本精神が世界的に燃発し、時代である。国民は日本精神を誇り、外國文化を吸収し、唱導した時代である。

心身を鍛練し、人格を養成して、人間尊重の基礎を築き、社会一致團結たのは第一である。國家のなまじれを忘れた一致團結。人間の偉大な力を發揮した。國體中心とする清國の大艦隊に

私は岸に呼びかゝる。政治家 時代である。そしてあのゆるゆる面をあてするな、教に迷わされるな、そして祖先の血のささきを聞き、自らをたゞ言論界を引きよめ、この世帯を以て自分を鍛錬し、修養せよ。そしてその目標を明治時代の日本人たることに置け。

明治時代は日本に於て最偉大な力を發揮した時代である。建國以來の日本精神が世界的に燃発し、時代である。国民は日本精神を誇り、外國文化を吸収し、唱導した時代である。

心身を鍛練し、人格を養成して、人間尊重の基礎を築き、社会一致團結たのは第一である。國家のなまじれを忘れた一致團結。人間の偉大な力を發揮した。國體中心とする清國の大艦隊に

宗像人の使命

「宗像」一〇〇号記念を祝して
昭和四十四年四月一日

出光佐三翁二月七日午前十一時五十分、急性心不全のため東京目黒区青葉台の自宅で逝去された。出身地の福岡県宗像郡に、又マニモ出光の第一歩を踏み出された北九州門司下、そして山口県徳山市へ、出光佐三氏の逝去が伝布した七日、緑の深い九州・山口各地に様々な感情が駆け抜けた。各新聞は報じ、念をききながら後を追う。一筋の道を歩み通す。翁の昂出して、面に大きく記された。

市井の油屋から「其の出光へか上った左志伝中の一人だ、ふるさを忘れず、私財を注ぎ、半世紀近くも各種の援助を続けた。翁のよきとくは、あんな九州人気が、翁を語る人の口から伝った。……翁の人物を感嘆し、悲しみが籠もった。

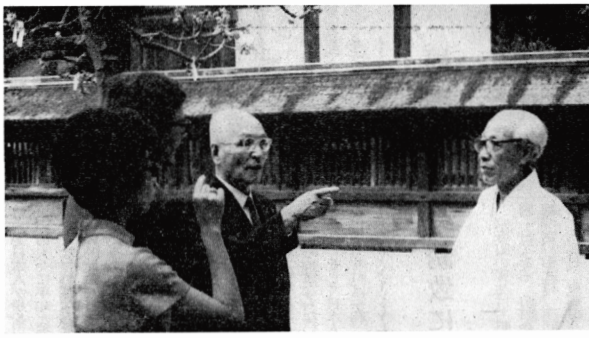
（一）に、「宗像」一〇〇号の発刊に記した。宗像高校での講演に挿した「青年よ、明治精神に帰れ」と題した記事がある。又同誌百号の時投稿された「宗像人の使命」二百号の「御神代」の一文を、宗像人の足あとを偲びつつ、後の教訓としたと思えます。

終戦の時、私は日本は戦争に負けたのではない。日本人がまに日本はなれない。日本人が、各新聞は報じ、念をききながら後を追う。一筋の道を歩み通す。翁の昂出して、面に大きく記された。

市井の油屋から「其の出光へか上った左志伝中の一人だ、ふるさを忘れず、私財を注ぎ、半世紀近くも各種の援助を続けた。翁のよきとくは、あんな九州人気が、翁を語る人の口から伝った。……翁の人物を感嘆し、悲しみが籠もった。

（一）に、「宗像」一〇〇号の発刊に記した。宗像高校での講演に挿した「青年よ、明治精神に帰れ」と題した記事がある。又同誌百号の時投稿された「宗像人の使命」二百号の「御神代」の一文を、宗像人の足あとを偲びつつ、後の教訓としたと思えます。

終戦の時、私は日本は戦争に負けたのではない。日本人がまに日本はなれない。日本人が、



44.4.20. 宮司(現名宮司)と談笑する員、会長、パ 44.4.20. 手前はドイツ「シュテル」

宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。

宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。

宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。

宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。

宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。

献茶祭で表千家々元(十三代)と参拝される会長 49.10.17.

昭和三十六年十月九日、出光三氏の壽の年、「宗像神社」上巻「昭和十七年」から計画されて今年七月に漸く刊された。その時、出光氏が、「モリーニ」に威儀を正し、正式参拝された記事を抜萃して、

宗像神社の神域に育つた宗像人の使命は、生まれ、死んで、そして再び生かされることである。それは、宗像人の使命である。宗像人の使命を祝して、宗像の精神を發揮して、世界第一の産業國を築く。それは、宗像人の使命である。



沖ノ島 沖津宮に参拝される会長(巡視船「いそゆき」船上) 35.5.23

宗像大社歌会
俳句作品集(三)

久留米 市入江柳江
便り来る物は年上程寒し

津屋崎 井浦 良介
春風に脚踏られ髪弄す

田 熊 安部 ゆき
燃え咲き椿地蔵土に掃す

福岡 広渡一寿軒
通らず放つめを寝の寒椿

田 熊 力丸 一郎
もの芽をひと目もめし日の沈む

神奈川 女洋子
上棟祭祈良慶に雪被ふ

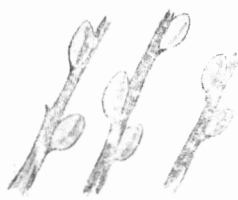
大井 木原 房子
筆の深き枝垂りや雲の朝

津屋崎 熊本 隼
一輪を映かせ盆掃きては

八幡西 磯谷 緑雨
親と子の折る夜の露露句

大井 吉田 音子
春財布はたきてつれ小買物

宗 像 吉田 妙子
バス待つ視野輝くそ雪舞へり



第三六回

宗像大社
歌会詠草

津 丸 葉田 繁
飼育する鹿鹿なるを政者の企
図する鹿を寄りたり

東 郷 田中 春子
若草を残してバスは直線道遠
のき下つ終りぬ

津屋崎 谷口 札子
沈ん花ほろび初めの池の中層
水に鯉の思づく

出光佐三氏を偲んで

—— ありし日の会長の面影 —— その(二)



御造営成った第二宮第三宮を拝観される会長 (51.5.19)

御神徳の尊厳

—— 『宗像』二〇〇号を祝して ——

昭和五十二年八月十五日

このたびは宗像大社報「宗像」が創刊以来、二〇〇号を迎えられたことを心からお祝申しあげます。

この間、昭和四十年十一月十一日には、三十年に及んだ大社御祭の復興の大事業が畢るの勅使御差遣を仰いで無事、御宮の大典を終え、更に五年五月二十日に、第一回、第二回の巡幸祭を行って争の遺跡事象を完了するについで、宗像の地方風も静風俗と

とができました。今や宗像大社は、天照大神御神勅の御精神に仰られて、皇御宗像から出るのは御神徳のおかけである面なされて、子供心人間の尊を神様に託して教えたか人間大事であるといふことを言つたに事足りた基礎はそこあります。又、宗像の地方風も静風俗と

福岡教育大学誘致に尽力さる

ここに、昭和十二年に福岡教育大学より発せられた一紙の詔書に、赤間統計十周年記念誌と題した二冊がある。この中に「統計時宗像町の立場」及び「宗像教育大学設立会」の二冊がある。この中に「統計時宗像町の立場」として、五波町教育委員長、福岡教育大学設立会会長であった、立石昇、宗像大社役員として、氏の抄写文があるの抄写して、

宗像町の経緯は、昭和五年四交換合名なる事業を基とした直月、一日である。町村合併促進法に基づき、吉武町、赤間町、河東村、南郷村、東郷町と神農村の一ツた。それ、町の発展として七、六五町といふ大きな地域を有する町となつたが、当時福岡市、農林振興計画に基づき、各町村とも農林改良事業として、農林振興野々平町長及び、福岡市農林の拡張、橋梁架設、暗渠排水、農地福岡学芸大学が、分校を西力所に

つて、宗像町の歴史を基として、私の素の頭は最も尊敬したのは小学校の先生で、その、その、その立派な宗像から出るのは御神徳のおかげである面なされて、子供心人間の尊を神様に託して教えたか人間大事であるといふことを言つたに事足りた基礎はそこあります。又、宗像の地方風も静風俗と



福岡教育大学の全景

ご逝去を悼み
謹んで哀悼の意を表します

宗像大社責任役員会
宗像大社責任役員会
宗像大社責任役員会
宗像大社責任役員会
宗像大社責任役員会
宗像大社責任役員会

- | | | | | |
|-----------|------------|-------|-------------|-----------|
| 宗像大社責任役員会 | 代表役員 | 津津 嘉之 | 監事 | 黒石 雅資 |
| | 責任役員 | 吉本 弘次 | | 吉田 寿夫 |
| | | 倉田 興人 | | 脇野 十郎 |
| | | 中村 清之 | | 尾崎 肇 |
| | | 立石 昇 | 宗像大社中・両宮奉賛会 | 会長 河野 幸人 |
| | | 河野 幸人 | | 副会長 佐藤 鶴吉 |
| | | 占部真太郎 | | 遠藤久一郎 |
| | | 小畑 初雄 | | 原 藤雄 |
| | | 宇都宮 諄 | | 沖西 彰 |
| 宗像大社氏子総代会 | 宗像大社事務所 | | | |
| 会長 中村 清之 | 名誉宮司 久保 輝雄 | | | |
| 副会長 立石 昇 | 宮司 津津 嘉之 | | | |
| 占部真太郎 | 権宮司 宇都宮 諄 | | | |
| 河野 幸人 | 以下 職員 一同 | | | |
| 小畑 初雄 | | | | |

情は、前述の通りである。この上、発展と、郷土の良き伝統を維持、發揚する為には、格別の配慮努力を惜しまれまい。時に、夢にまで見られた城山の姿、その山麓に教育養成の教育が表現する。これは、大賛成である。文部省から建設費を算に計上されて、いな、暫く自分の致財助の折、地土提供の爲め、土地購入も、調ひしてやる。理由としては、教育機関の確保、自主應酬の確立、幾多の財材を確保して、堅実な社会の建設に寄与して、来生地帯に、

戦前までは、「宗像教育、宗像」の呼び名が高く、教育界に、実業界に幾多の知名士が出て、その間、周知の事である。更に、古来より国民道の精神宗像大社の信託中心に、海の正倉院と言われる神島沖、地を以ては唯一の神徳としての誇りを持つ土地である。

辻奈曲折を経て、大誘致の位置は、城山麓が良からうといふことになったが、さ町の財政事